

人気3人組 YouTube メンバーのケビンを襲った 神経内分泌腫瘍 消化器や肺に発症

人気3人組ユーチューバー「Kevin, s English Room」のメンバー、ケビンさんは昨年10月、直腸の神経内分泌腫瘍（NET）と診断され、手術を受けたと SNS で報告しています。アップルの共同創業者スティーブ・ジョブズさんは2003年に CT 検査で膵臓（すいぞう）の NET と診断され、11年に亡くなっています。NET は消化器や肺など全身の臓器にできる珍しい腫瘍です。今回は腸と膵臓の NET を中心に解説します。

60歳の男性 A さんは5年前、症状はありませんが、検診の腹部エコーで膵臓の中央部（膵体部）に2センチの腫瘍を指摘されました。造影 CT で通常の膵がんとは異なり、血流の多い2センチの腫瘍を認め、肝臓にも転移を2つ認めます。超音波内視鏡検査を受け、細い針で腫瘍から細胞を取り、NET と診断。膵体尾部と肝部分切除を受けました。3年前に多発性肝転移再発を認め、以後 NET の抗がん剤治療を受けています。先日、受診すると腫瘍が大きくなっており、ペプチド受容体放射性核種療法（PRRT）を勧められました。

NET は神経細胞の性質とホルモン分泌など内分泌機能を有する神経内分泌細胞に由来する腫瘍です。この細胞は全身の臓器のところどころに散在し、腫瘍も全身に発生します。好発部位があり、6割が消化器、3割が肺に発生します。日本人では消化器の中でも直腸と膵臓に比較的多い腫瘍です。

■日本でも増加、60~70代に多い発症

神経内分泌腫瘍全体（NEN）でも10万人当たり3~4人とまれな腫瘍です。ただ、日本でも世界でも年々増加しています。やや男性に多く、60~70代の発症が多くなっています。

NEN は大きく分けて、正常細胞に近く分化度が高い予後の良い神経内分泌腫瘍（NET）と、分化度が低い神経内分泌がん（NEC）に分けられます。NEC は進行が早く、再発率も高く、予後が悪いのですが、幸い非常にまれです。NET も NEC もその発生原因は分かっていません。ただ、臓器によって異なりますが、たとえば膵 NET の10~20%には遺伝が関係します。

膵臓ではインスリンのようなホルモンを分泌する機能性 NET を3割ほど認め

ます。小腸は1〜2割で、大腸ではほとんどみられません。機能性 NET は発症が早く、インスリンを分泌する NET は低血糖で発症し、腫瘍は小さく早期に診断できます。

このような症状のない非機能性 NET の半数以上は検診か、何かほかの病気の検査の際に偶然に見つかります。したがって発見時にはすでに転移していることが珍しくありません。

治療の原則は、外科切除が可能であれば手術をします。手術は通常、その臓器のがんと同じで、腫瘍含め臓器を切除し、リンパ節を郭清します。小さく分化度の高い NET に対しては、脾臓でも腸でもできるだけ臓器を温存するよう努めます。

転移あるいは再発した NET に対しては、NET に特異的に発現するソマトスタチン受容体を標的とするソマトスタチン受容体作動薬と分子標的治療薬を組み合わせ治療します。

最近、この受容体を発現する NET 腫瘍細胞だけをピンポイントで狙い撃ちして放射線治療する PRRT が保険適用になりました。転移先の診断もでき、副作用が少なく、かなり効果が期待されています。